

| | | | | |
|--|--|--|----------------------------|-----|
| 平成 26 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス | | | | |
| 教科目名 | 体育 | 担当教員 | 久世早苗 山本浩貴 麻草 淳 井上のぞみ (非常勤) | |
| 学年学科 | 2年MEDCA学科 | 通 年 | 必修 | 2単位 |
| 学習・教育目標 | (A-3) 100% | | | |
| 授業の目標と期待される効果： 第 2 学年体育は、集団スポーツを主に実技を行う (バレーボール、サッカー)。集団でおこなう球技では、練習やゲームを通して個人的技能や集団的スキルを高めるなかで、体力や運動能力の向上を図る。また、毎年継続して体力測定を行い、第 2 学年における各自の体力値の変化を知るとともに、体力向上の課題づくりができるようにする。さらに夏場の水泳では、各種泳法の技術を高めるなかで、体力の向上を図る。 ①バレーボールの特性に触れ、集団技能と個人技能を高める。 ②サッカーの特性に触れ、集団技能と個人技能を高める。 ③体力テストの実施より、体力の変化を確認し、体力向上に努める。 ④泳力の向上に努める。 ⑤集団における自己の役割を自覚し、社会生活に必要な態度を育成する。 | 成績評価の方法： 体育実技の評価は、以下 4 つの項目により観点別評価をおこない総合評価をおこなう。 ①自ら学ぼうとする「関心・意欲・態度」 ②運動実践場面での「思考力・判断力」 ③基礎技術や応用技術に対する「運動技能」 ④運動技能やルールに対する「知識・理解度」 ③の技術評価は以下のような観点から行う。 前期：バレーボール ・基礎技術修得度 (サーブ、パス、スパイク、レシーブ) ・試合での技能評価 水泳 (特にバタフライによる泳法) 後期：サッカー ・基礎技術習得度 (ドリブルパス、リフティング) ・試合での技術評価 | 達成度評価の基準： ①バレーボールのゲームを形成する基本的な技術 (バレーボールではレシーブ、トス、サーブ) の上達について。 ②サッカーのゲームを形成する基本的な技術 (ドリブル、パス、シュート) の上達について。 ③安全に配慮し、他と協調しながら、自己の役割を果たせるか。 ④各種目のルールを理解し積極的に練習やゲームに取り組み、審判ができるか。 ⑤水泳では、1 年次のクロール、平泳ぎの泳力向上に加え、バタフライの泳法を習得できるか。 | | |
| 授業の進め方とアドバイス： それぞれの種目特性を理解し楽しさを感じるためには、個人技能の向上が不可欠である。事前に教科書に目を通して、練習やゲームに積極的に取り組むこと。また、練習やゲームを安全で円滑に進めるために、互いに協力し、各自の役割を果たすこと。 ※授業内容は、健康・安全面への配慮から、天候等により変更することがある。 | | | | |
| 教科書および参考書： アクティブスポーツ (大修館) | | | | |
| 授業の概要と予定： 第 1 回：バレーボール導入 ・バレーボールの特性と基礎知識、安全上の諸注意について 第 2 回～第 3 回：バレーボール 基礎練習と簡易ゲーム ・サーブ、パス、レシーブ、簡易ゲーム、ルール、審判法 第 4 回～第 5 回：体力テスト ・室内測定 (握力、上体起こし、反復横跳び、立ち幅跳び、20 シャトルラン、長座体前屈) ・屋外測定 (50m 走、ハンドボール投げ) 第 6 回～第 9 回：バレーボール 基礎練習と試合 ・レシーブ、パス、トス、サービス、スパイク、リーグ戦、実技テスト 第 10 回～第 12 回：水泳 ・クロール、平泳ぎ、バタフライ、水球ゲーム、タイム測定テスト 第 13 回～第 14 回：バレーボール ・試合、実技テスト 第 15 回：前期のまとめ (評価方法の説明と講評) 第 16 回：サッカー導入 ・サッカーの特性と基礎知識、安全上の諸注意について 第 17 回～第 18 回：サッカー 基礎練習と簡易ゲーム ・各種キック、パス、リフティング、ドリブル、トラップ、ルール、審判法 第 19 回～第 23 回：サッカー 基礎練習とハーフコートゲーム ・ルールと審判法の実際、ハーフコートゲーム 第 24 回：実技テスト 第 25 回～第 29 回：サッカー 基礎練習と試合 ・オールコートでの試合と審判法、実技テスト 第 30 回：後期のまとめ、1 年間の体育実技のまとめ (評価方法の説明と講評) | | | | |